



地域と共に生きる ～強みを出し合うコラボレーション～



社会福祉法人 翡翠会 統括施設長 おおし まさし 大越 将司さんより

私の所属する社会福祉法人翡翠会は、千葉県の太平洋側・大網白里市にあります。平成13年にこの保健福祉圏域で初めての知的障がい者入所施設「山武みどり学園」を開設し、現在は障がい福祉と介護保険の事業所を8か所運営しています。法人の理念は「地域と共に生きる」。この度北摂杉の子会様より寄稿のお話を頂いた際、「うちの法人理念と同じだ!」と大変親近感を抱きました。

さて翡翠会では、この理念の基に地域に根ざした運営を心掛けておりますが、法人運営は「山あり谷あり」。良いことばかりではありません。そこで紙面をお借りし、本法人と地域とのかかわりを2つほど紹介させていただきます。

1つめは数年前。障がい者の方のグループホーム建設計画を進める中で開催した住民説明会でのことです。参加した20人以上の方々のほとんどが反対派でした。我々は「グループホーム」が比較的障がいの軽い方が住まれる場所であること、「施設」ではなく普通の「住宅」

であることを何度もお伝えしましたが、説明会は紛糾の一途。参加者からは「うちには小さな子供がいるから」、「(ホームが建つことで)地価が下がったらどうしてくれるんだ!」等の意見が出されました。本法人は地域を第一に考え運営してきたと自負していただけに、この結果は大きなショックでした。現時点ではこの場所でのホームの開設を延期しています。今後も説明を重ね、地域の方々のご理解を頂けるよう尽力していきます。

2つめは今年のこと。本法人は平成29年度より大網白里市との連携で、介護事業所かきつばたで「認知症カフェ」を共同運営しています。「認知症カフェ」とは認知症の方やその家族、各専門家や地域住民が集う場として提供され、お互いに交流をしたり、情報交換をしたりすることを目的とした場のことです。2年目の今年は、夏休みに「子ども食堂」を同時開催しました。当初認知症カフェの運営で採択された事業なので、子ども食堂を運営する上で必要

な「食材費」の財源はありません。困っていたところ協力を申し出てくれたのが、地域のロータリークラブでした。大網ロータリークラブからは食材費としての財源支援、加えて養鶏場を営する会員の方からは「卵」、農家の会員の方からは「お米」「野菜」といった食材そのものを寄付して頂きました。「認知症カフェ」と「子ども食堂」。二つを同時に行うこと目的は「地域住民の世代間交流」ですが、隣接する放課後等デイサービスや生活介護事業所の利用者様も加わり、障がいを持つ方々も自然な形で一緒に参加できました。全3回の子ども食堂での来場者は予想を超える214名!ボランティアだけでも毎回10名以上の方に参加頂きました。調理担当ボランティアの80代女性の「いくつになっても人の役に立てることはうれしい。人は誰でも必要とされる存在でいたいよ」とのお言葉。私自身大変勇気づけられました。

最後に、我々福祉に携わる職員は利用者様やそのご家族とのコミュニケーションを得意とする反面、一般の地域住民との関わりは意外と苦

手なのではないでしょうか。前述の説明会では地域住民の方々も我々法人側も各々「権利」を主張し合い、合意には至りませんでした。しかし子ども食堂では、行政からは「広報」、ロータリークラブから「食材」、ボランティアの方々から「マンパワー」と多方面からの支援を頂き、各々が互いに出来ること・得意なことを出し合い成功しました。つまり、法人運営もイベントも一法人で全て完結するのではなく、出来ないことは相談し、互いの強みを出し合うことが大切なのではないでしょうか。「コラボ」って大変だけれど、達成感は格別。まだまだ「理念」の具現化は道半ばですが、コラボレーションの輪を重ねられるよう、精進していきたいと思います。

